

守山まると活性化プラン検討委員会
第4回 学区別会議（玉津学区）

日時：平成 25 年 9 月 18 日（水）

19：30～21：30

場所：玉津会館

次 第

1. あいさつ

2. 説明

○本日の進め方

○第3回検討結果の説明

3. 意見交換（テーブル毎に）

○前回のふりかえり

○学区のまちづくりの取り組みを考える

4. 結果の発表・共有

5. 次回の予定など

守山まると活性化プラン検討委員会（学区別会議）委員名簿

【 玉津学区 】

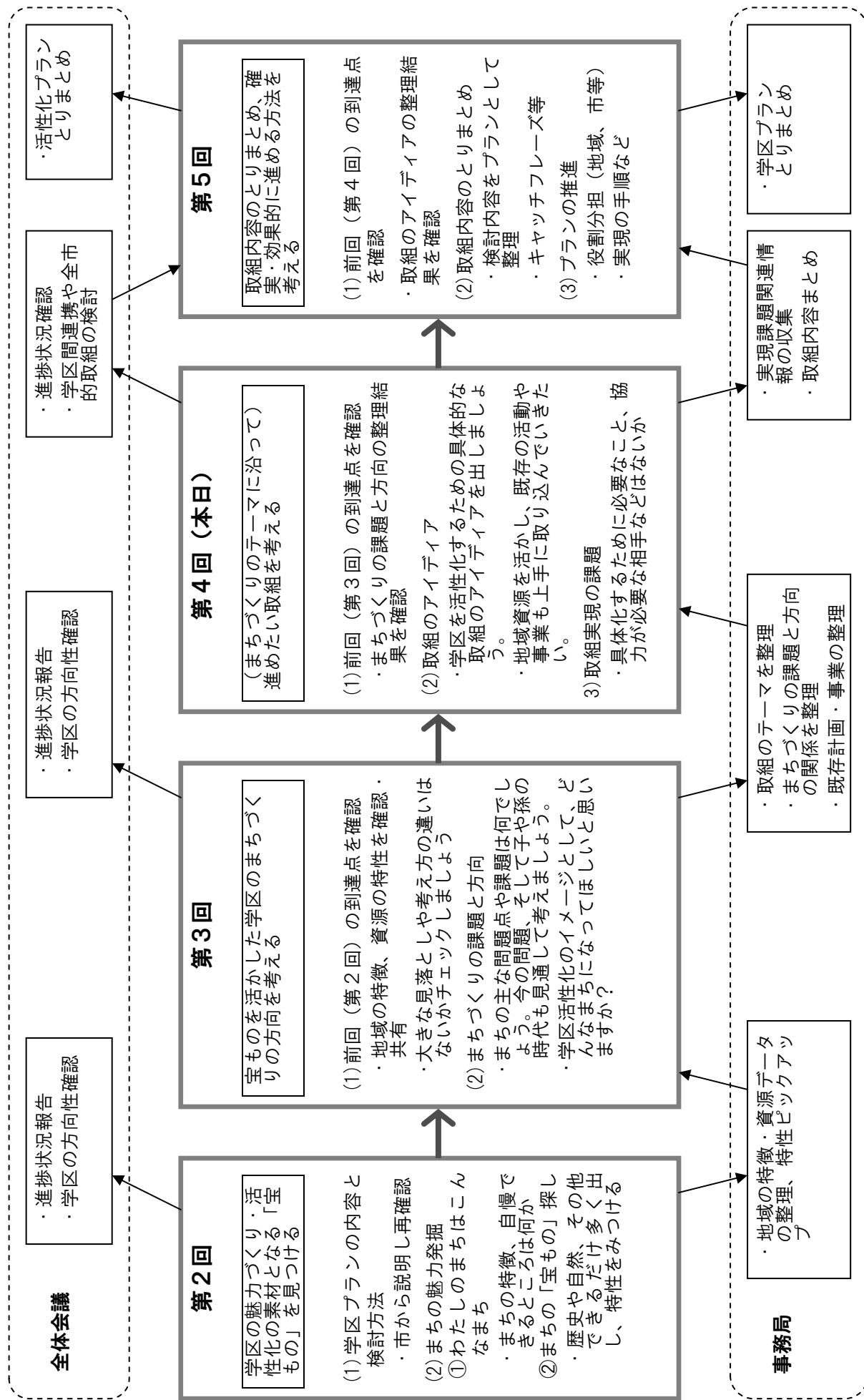
H250724 現在 敬称略

No.	自治会	名前	
1	赤野井	谷口 喜久	たにぐち よしひさ
2	赤野井	赤井 武志	あかい たけし
3	赤野井	堀井 久嘉	ほりい ひさよし
4	赤野井	田中 善也	たなか よしなり
5	赤野井	徳地 智映	とくち ちあき
6	矢島	林 俊行	はやし としゆき
7	矢島	北野 進	きたの すすむ
8	矢島	藤田 康彦	ふじた やすひこ
9	矢島	大塚 美和	おおつか みわ
10	石田	赤井 清司	あかい きよし
11	石田	金野 弘子	こんの ひろこ
12	石田	澤田 文子	さわだ ふみこ
13	石田	中西 清重	なかにし きよしげ
14	十二里	荒木 勝司	あらき かつじ
15	十二里	十二里 勝美	じゅうにり かつみ

事務局

- ・ 濱崎一志（アドバイザー：滋賀県立大学 人間文化学部教授）
- ・ 松岡 幹雄 ・ 鈴木 文男 ・ 松山 正
- ・ 坪内 稔夫 ・ 吉原 史雄 ・ 足立 慎也
- ・ 奥村 彰彦 ・ 田渕 誠一 ・ 小野田 敦

学区別会議の進め方



守山まるごと活性化プラン検討委員会 学区別会議 ニュースレター

第 3 回 学区別会議 [玉津学区]

平成 25 年 8 月 13 日（火）午後 7 時 30 分から玉津会館において、守山まるごと活性化プラン検討委員会の第 3 回学区別会議を開催しました。

玉津学区にお住まいの住民 13 名にお集まりいただき、まず、前回会議で出された意見について、大きな見落としがないかなどふりかえりをしました。次に、学区のまちづくりを進めていく上の課題や方向性について話し合い、最後に参加者同士で共有しました。

学区別会議の様子

■当日のプログラム

- ①挨拶：谷口学区長より
- ②内容説明：会議当日のプログラム内容、第 2 回検討結果の説明
- ③テーブルに分かれて意見交換：『前回のふりかえり』、
『学区のまちづくりの課題と方向性』
- ④結果の発表・共有：テーブル毎で話し合った内容を発表して共有



▲テーブル毎に話し合いました

テーブル毎に玉津学区の『まちづくりの課題と方向性』について話し合いました

- 3つのテーブルに分かれ、前回会議で出された玉津学区の『良いところ』や『たからもの』の確認を行い、さらに、それらの特徴をもとに、『学区のまちづくりの課題』を話し合いました。
- 『たからもの』としては、地区内の神社仏閣や水資源、人が集う仕組みなどの項目で追加がありました。また、新たな項目として、「赤野井を中心とした7つの放射状道路網」がありました。
- 『まちづくりの課題』については、「地区人口の減少と高齢化が顕著であること」、「伝統文化の継承が難しくなっていること」、「人のつながりの希薄化が進行していること」、「自然環境が失われつつあること」、「交通の便が不便であること」などの意見が出されました。
- 『今後のまちづくりの方向性』としては、「人のつながりや若者の関心を高めるイベントの開催」、「地区計画に基づくまちづくり」、「若者が定着できる住環境の整備」、「漁業・農業の6次産業化」、「赤野井湾でのしじみ養殖」「学区のPRの強化」など、今後のまちづくりのヒントになるような意見が多く出されました。



▲出された意見は記録



▲類似の意見をグルーピング



▲成果を発表し参加者で共有

守山まると活性化計画 玉津学区 第3回会議

1. 実施概要

学区・回	玉津学区 第3回
日時	2013年8月13日(水) 19:30~21:30
会場	玉津会館
参加者	住民13人(赤野井5人、矢島4人、石田2人、十二里2人) 守山市(松岡、鈴木、松山、坪内、吉原、足立) 地域未来研究所(奥村、田淵、小野田、貞松)
会場設営	3テーブルを配置。くじでテーブルを指定して着席(赤野井、矢島、石田+十二里)
実施経過	1. 挨拶 ①開会挨拶(坪内主査) ②開会挨拶(谷口学区長) 2. 説明 ①本日のプログラム内容(奥村) ②第2回検討結果の説明(奥村) 3. 意見交換(テーブル別ワーク) ①前回のふりかえり ・前回の会議結果を整理した資料を見ながら、抜けていることからものの追加、分類の再検討を行った。 ・「集いの場・活動」の項目では、各自治会の住民集会所や自治会館、同年会等の追加があった。 ・「伝統・文化、歴史」の項目では、伊賀坊、諏訪屋敷、六条堤、赤野井東・西別院など地区内の神社仏閣の追加があった。 ・「人が集う仕組み」の項目では、学区民大運動会や学区民の集いなどの追加があった。 ・「自然」の項目では、天神川、あか池などの水関係資源の追加があった。 ・また、新たな項目としては、「赤野井を中心とした7つの放射状道路網」の指摘があった。 ②学区のまちづくりの課題と方向 ・学区が抱える問題点や課題については、各テーブルとも共通して「少子・高齢化」

	による各地区の活力低下に関わる意見が多くだされた。 ・課題のカードは模造紙に貼り、グルーピングして概略の特徴を整理した。 4. 結果の発表・共有 ・テーブル毎に参加者の代表が地域の課題、課題に対応するための方針について検討結果を発表。 ・各テーブルに共通して、「少子・高齢化」、「若者を地区に引き留める」、「新住民を受け入れる仕組み」などに関連する課題があげられた。 5. その他 ・次回会議の開催日時は、9月18日（水）19:30～、玉津会館にて開催が決定された。
--	---

第3回玉津学区会議の様子



2. 第3回学区会議の意見まとめ

地区のまちづくりの課題や方向性をまとめた。

<玉津学区のまちづくりの課題>

■少子高齢化・人口減少

- ① 地区の人口構成が高齢化している。地区の若者の流出がある。
- ② 地区の若者も地区外に流出する傾向にある。子どもも少なくなっている。

■人と人のつながりの希薄化

- ③ 個人主義になり、自己中心的な若者が多くなってきた。
- ④ 地域の連帯感が薄い。地域団体の解散も見られる。
- ⑤ 親戚、近所つき合いの希薄化が進んでおり、人と人が助け合うという精神が薄くなっている。

■地域の伝統・行事・活動の担い手不足

- ⑥ 伝統を残すお祭りの参加者が減ってきた。祭りの神輿をかつぐ人も少なくなっている。
- ⑦ 自治会単位での行事（運動会など）がしにくくなっている。
- ⑧ 守山市内で唯一の「学区民大運動会」の継続が難しくなっている。（少子高齢化のため）
- ⑨ 地域行事への若者の参加が少ない。

■地域産業の衰退、賑わいがいない

- ⑩ 近所に飲食店や買物をするところが少ない。→ 近くの大規模店舗に行ってしまう。
- ⑪ 1次産業（農業・漁業）の後継者が不足している。農業志向の若者が少ない。
- ⑫ 地域の産業を活性化する方策が必要。（例：1次産業の6次化）

■新しい住民が転入しにくい、新住民を受け入れる意識・仕組みが必要

- ⑬ 調整区域で新しく宅地をつくれな。→若い人が出て行く、入りにくい。
- ⑭ 外来者は空き家、土地を買えない。→新たに転入できない。
- ⑮ 新旧住民が共存できる意識・制度が必要

■生活環境の整備、公共交通が不便

- ⑯ 生活環境のインフラ整備が必要である。（防犯灯、公園、道路改修など）
- ⑰ 公共交通の便が悪い。その一方で、自動車の増加による事故が多い。

■川や琵琶湖などの自然が失われている

- ⑱ 地区内の川に水が流れていない。
- ⑲ 赤野井湾の汚染、外来植物（オオハナミズキンバイ）の増殖

2.1 地域のまちづくりの課題、方向

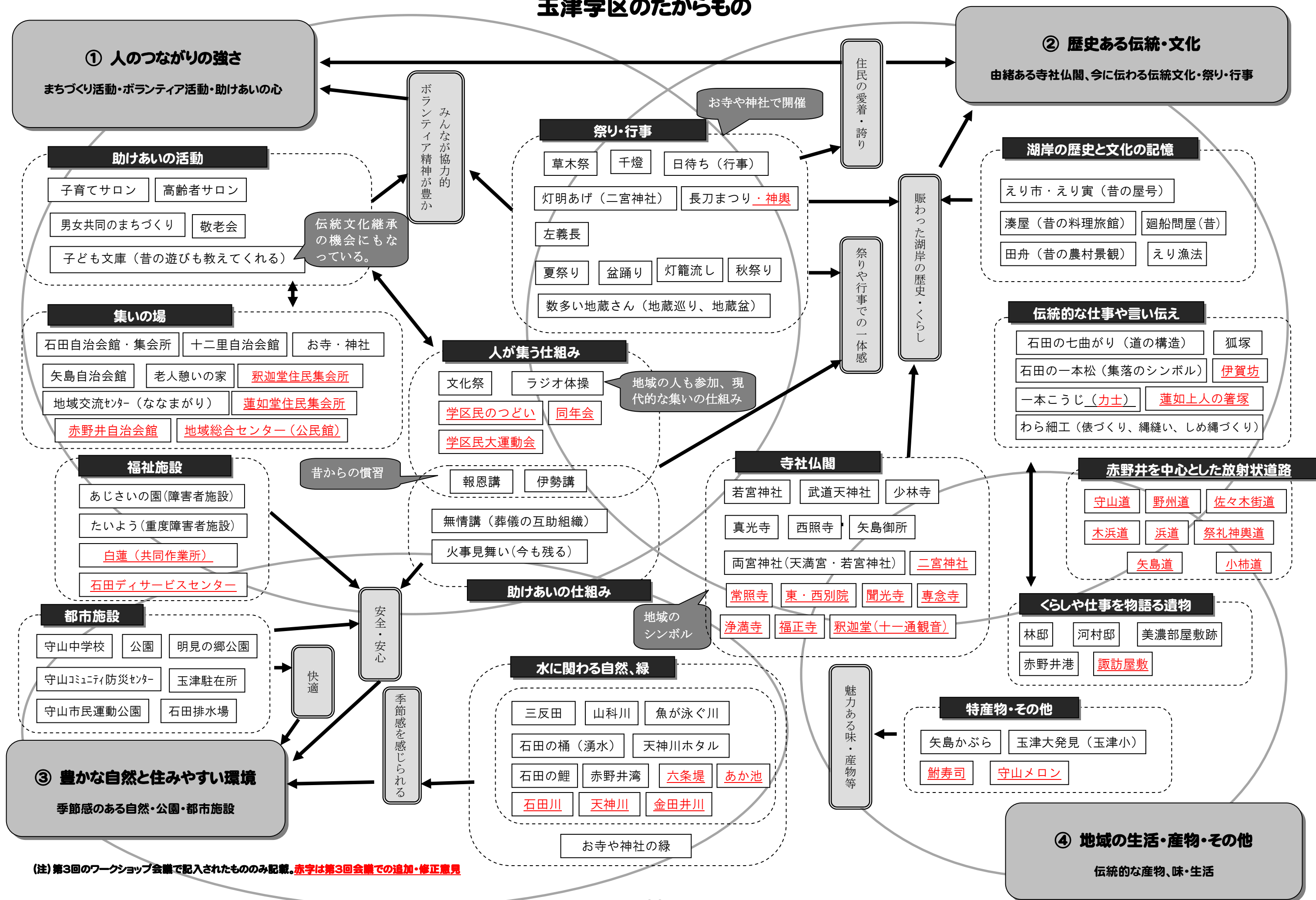
学区の課題	具体的な内容	方向性・解決策
少子高齢化 人口減少	人口が減少している（高齢化）	○ 若い人が住みやすい環境づくり ○ 地区計画による魅力あるまちづくり ○ 住宅団地の開発、商業施設の誘致 ○ 人が集まる環境整備 ・ 企業施設の活用 ・ 体育施設の活用 ・ 通過交通をとめる工夫 ・ 川の公園化（地域資源を生み出す） ・ 水運遺構の観光資源化 など
	地区の若者の流出	
	二世帯、三世帯の家がこの学区に多いのが特徴であるが、何十年後には高齢化になっていきそう。	
	若い世代の跡取り息子が地域から離れるため、若い人達の存在感が欠けてきている。	
	若者が出て行く。若い世代が県外に出て行く。	
	子どもが少ない。	
	高齢化が進んでいる（高齢者が多い、高齢者が年々増加）	
	若い世代が家を建てられない（調整区域）。	
	青年の年代は外に目がいってしまっている。	
	小・中学生までと家庭を持つ年代が繋がっている気がする。	
人と人のつながりの希薄化	いろんな団体があるが、昔からある婦人会エルダ等の解散が進み、人とのつながりが希薄になっている。	○ 玉津学区を結ぶイベントの実施（一本こうじ相撲大会、重量運び、屋形船、しだれ桜、湖岸の綺麗な夜景の活用など） ○ 玉津学区を結ぶ歴史ある街道を結んだイベント ○ 古い歴史のある道の利用（祭礼道など） ○ 学区全体でのイベントの企画・開催 など
	自己中心的な若者が多くなってきた。	
	創っていいこう、守っていいこう、育てていいこうという一地域連帯感が薄い。	
	親戚、近所つき合いの希薄化（本来はよい面なのだが）	
	人と人との助け合う心が希薄（本来はよい面なのだが）	
	向こう三軒、両隣、助けあいの精神が希薄。	
	生活改善をやりすぎると絆が薄れる。	
	個人主義になり、各世帯のつながりがなくなる。	
	伝統行事が継承されない。	

学区の課題	具体的な内容	方向性・解決策
地域の伝統・行事・活動の担い手不足	お祭りの参加者（伝統を残す）が減ってきた。	☐ 伝統文化の後継者づくり（幼い頃から教えていく） ☐ 長刀祭り存続のため、他学区との共同神事で存続させる。 ☐ 祭の担い手（年齢制限が40歳→60歳へ枠拡大） ☐ 魅力ある地域づくり、まちづくり。 ☐ 歴史の研究することからはじめる成り行き、言い伝えなど、地域文化、歴史の語り部として社会貢献→高齢化・生きがいの開発 ☐ 玉津学区の文化伝統を次代に伝えていく仕組みづくり ☐ 地域の魅力を伝える場の創出 → 地域の祭りのPR など ☐ 若者が達成感を持てる行事 など
	神輿をかつぐ人がいない	
	小津神社の長刀祭りは子どもが主役であるが、少子化で子どもが減少し伝統文化が守れない。	
	全体的に少子化傾向にあるので、祭りごとや学区の行事に人が足りない。	
	自治会単位での活動（運動会など）がしにくくなっている。	
	守山市内で唯一の学区民大運動会の継続が難しくなっている。（少子化・高齢化のため）	
	伝統行事（長刀祭り、神輿かき等）を続ける時の人員（子ども）の確保が難しくなっている。	
	伝統文化の継承の難しさ。	
	長刀祭り8年に1度、小津学区も含めての行事が継承できない。	
	祭の見物人も少なくなった。	
	歴史ある伝統の維持について人が減ってきている。	
	高度経済成長で歴史、伝統が失われる。	
	地域行事への若者の参加が少ない。	
	昔の道がなくなった。（小柿道など、昔をしのぶ道）	

学区の課題	具体的な内容	方向性・解決策
地域産業の衰退 賑わいがいない	農業志向の若者が少ない。 飲食店が減少している。 近所に買物するところが少ない（ららぽーとに行く） 商売をやっていない。	☐ 農地の保全と宅地の確保 ☐ 商店街の賑わいの創出 ☐ 赤野井湾再生プロジェクト ・ 観光漁業、地産地消の促進 ・ 琵琶湖～諏訪屋敷を結ぶ天神川などの水運遺構の整備と観光資源化
	1 次産業（農業・漁業）の後継者不足 祭りも全て農から → 農がすたれている。	☐ 玉津学区を結ぶイベントの実施（一本こうじ相撲大会、重量運び、屋形船、しだれ桜、湖岸の綺麗な夜景の活用など） ☐ 体験型観光の提案（かまどご飯など） ☐ 玉津学区を結ぶ歴史街道を結んだイベント ☐ 地域のたからものの活用 ☐ 実行委員会の立ち上げ
	調整区域で新しく宅地をつくれない。→若い人が出て行く、入りにくい。	☐ 地区計画の検討・策定を進める ☐ 市街地調整区域の考え方の再検討。 ☐ 住宅団地の検討 ☐ 派手なことはやめて目をかけ合う。
	外来者は空き家、土地を買えない（調整区域）	
	家を建てやすくする。	
新しい住民が転 入しにくい	転入出来ない。	
	子ども夫婦と同居ができない。今の職場社会	
	石田自治会は混住の実績あり。40 年共にまちづくりを進めた。 （65 戸→530 戸）	
	地元以外来者を受け入れる気持ちはあるか？	
	新旧住民が共存できる意識、制度が必要。 古い伝統を押しつけられることが少なかった。（石田） 生活の中で交際費がウエイトを占めている。矢島は生活改善で申し合わせ をしているが、学区全体で取り組んで欲しい。	

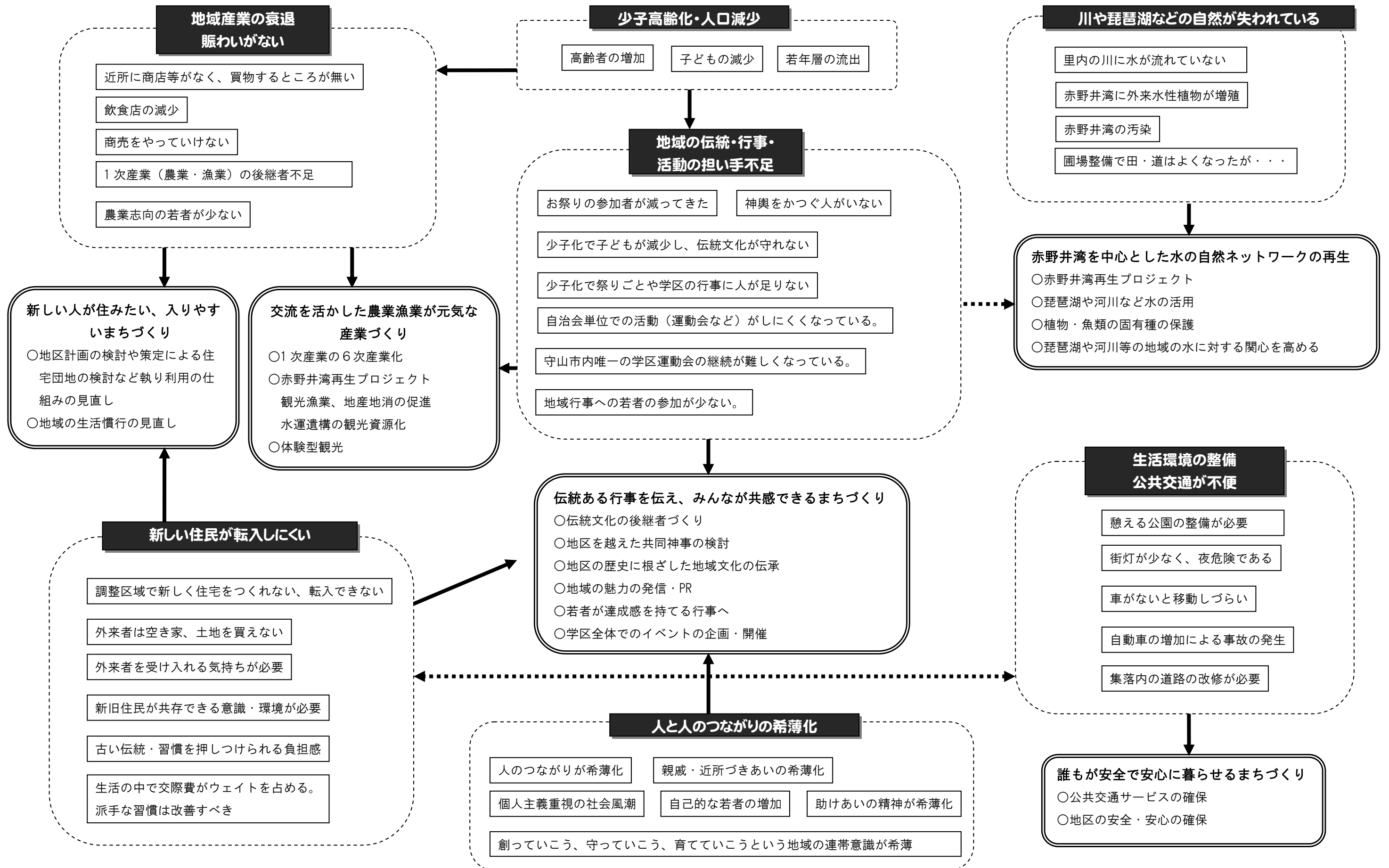
学区の課題	具体的な内容	方向性・解決策
生活環境の整備 公共交通が不便	街灯が少なく、夜、危険である。	○安全で利便性の高いまちづくり
	若い人が喜んで住めるような施設・公園が必要。	
	集落内の道路の改修	
	車がないと移動しづらい。	
	自動車利用の増加により、交通事故が多い。（浜街道）	
	バス便が少ない	
自然が失われている	川に水が流れていない	○ 赤野井湾再生プロジェクト ・ 自然環境促進（田園風景）琵琶湖の活用 ・ 赤野井湾の開発（リゾート、ボート、ヨット、シジミ養殖、鮎寿司、もろこ、など） → 市・県・国の補助を得るように地域で頑張る。 など
	赤野井湾に外来種（オオハナミズキンバイなど）が増殖	
	赤野井湾の汚染	
	里内の川にきれいな水が流れるように。	
	圃場整備、田・道はよくなったが・・・	

玉津学区のたからもの



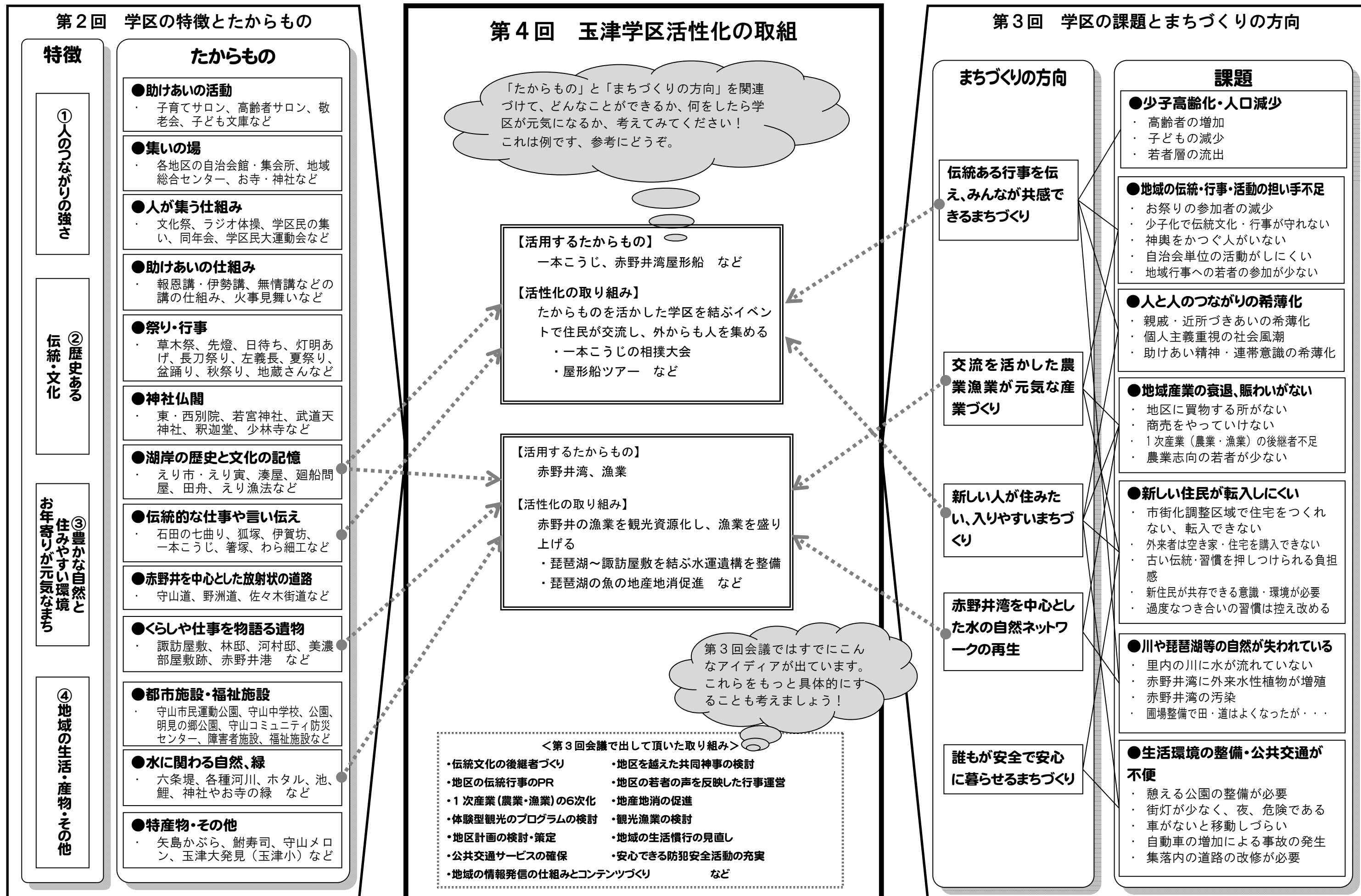
(注) 第3回のワークショップ会議で記入されたもののみ記載。赤字は第3回会議での追加・修正意見

玉津学区の課題・活性化の方向性



（注）第3回のワークショップ会議で記入されたもののみ記載。

第2回と第3回の成果を踏まえ、第4回は玉津学区を活性化する取り組みを考えます



(注) 第2,3回のワークショップ会議で記入されたものから抜粋